

津波避難場所にかかるアンケート集約

市内 61 自治会で実施された津波避難訓練を踏まえ、各自治会にアンケートを行いました。主な意見等は次のとおりです。

津波避難訓練 61 自治会（海拔 10m以下の自治会数 80 自治会）

8月28日 吉津地区（5自治会） 9月4日 松縄手自治会

11月13日 55自治会

【アンケート結果】 訓練実施の全 61 自治会が回答

避難訓練参加総人数 2,461人

実際に行った避難場所 70箇所

避難場所までの所要時間 平均で約10分

（主な意見）

避難場所として適当ではないと思われた場所の意見

- ・ 高台に行き着くまでの避難路が、密集した墓石により狭小で、地震による倒壊を想定すると危険と思われる。
- ・ 高台の道路及びトンネルだが、防災行政無線の放送が聞き取りにくく、最新情報が得にくく不安を感じる。
- ・ 避難場所にトイレ、雨・雪をしのぐ建物等がないので、不便である。
- ・ 地震で避難路の石段が崩れないか心配。
- ・ 避難場所に、急峻な崖があり土砂崩れが心配され不適當。

その他の意見

自治会としても、高齢者や身体の不自由な方などへの避難支援の必要性を感じた。災害時たすけあいネットワークの情報をオープンにしないと、緊急時の避難支援に遅れが生じたり、また支援者の2次災害を招くのではないか。

避難要支援者の家に、「避難済み」を示す旗などを立てると、スムーズな避難支援が行える。

高齢者や身体の不自由な方こそ、避難訓練が必要である。

子供の参加が少なかった。学校でも、こうした避難訓練の大事さを教えて欲しい。実際の有事の際には、市役所、消防署、宮津高等学校などへ避難したい。

山道などの整備を行えば、避難場所としても確保できる。

避難路整備は、公共に任せていては迅速に進まないため、自治会等での取り組みを検討したい。

避難場所にも災害時対応備蓄物資が必要ではないか。

警察や消防団と連携して、避難誘導を行って欲しい。

K T Rにおいても、駅構内での避難広報が必要である。

情報伝達に際し、アマチュア無線グループの有効利用が図れないか。

他地区に避難場所を設定する自治会では、場所が分らず訓練の必要性を感じた。

避難時の車両移動は混雑するため、リヤカーなどを用意しておきたい。

車で行く避難場所、徒歩での避難場所の区分が必要であると感じた。

他地区からの避難者が増えると、自治会集会所が手狭で心配である。

電柱や公共施設等に海拔標示をして欲しい。

「大津波警報」発令時に、津波予測高情報を流して欲しい。

防災行政無線での放送内容が、聞こえない。聞き取りにくい。

防災行政無線の放送は、女性の高い声が聞きやすいのではないか。

21 急な石段は高齢者が登れない、手すりやわき道を整備してほしい。